

## 雨にも負けず 被爆 78 周年 「非核・平和行進」 スタート

原水爆禁止鹿児島県民会議と県被爆者協議会は、2023 年 6 月 6 日（火）に県内の各自治体や議会への「非核平和へのとりくみ」の要請行動をスタートしました。

初日の鹿児島地区ではあいにくの大雨で、各労組の青年部や女性部の自転車パレードやデモ行進は中止としましたが、参加者全員で鹿児島県庁前と鹿児島市役所前で集会を行いました。

県庁前集会は、労組青年部や女性部の皆さんと、自治労県職労の役員、周辺の労組、団体の皆さま約 40 名の参加で、降りしきる雨の中、10 時半、実行委員会事務局長の湯田さん（鹿児島市職労）の司会進行で始まりました。

実行委員長の野村大志さん（私鉄鹿児島交通労組）は、集会にあたり次のように訴えました。

「広島・長崎に原爆が投下され、78 回目の夏を迎えます。この平和行進は、今日から鹿児島県内を一巡します。その後、8 月 9 日長崎で開催される原水爆禁止世界大会まで九州各県・各自治体を回りながら核廃絶を訴えます。

2017 年にノーベル平和賞を『国際核廃絶キャンペーン』団体のアイキャンが受賞し、世界の潮流が確実に核廃絶の方向に向かい、同じ年に国連総会で『核兵器禁止条約』が採択され、2021 年 1 月に発効しました。しかし、核兵器保有国の反対や、日本をはじめとする『核の傘』に依存する国々は、これに背をむけ続けています。ウクライナ戦争が収束の気配が見えず、武器使用はエスカレートし、核兵器使用の威嚇が続いています。



今こそ、『核兵器の無い世界の実現』へ向けて、世界唯一の被爆国である日本の果たす役割が重要と考えます。

各自治体におかれては、核兵器を無くし、平和を守り続けるために、行政自らの取り組みにあわせて、日本政府への核兵器禁止に向けた一層の取り組みの強化を求めています。

私たちの運動を拡げることによって、日本政府の動向を



変えさせるという強い意志を持って、平和行進をとりくもうではありませんか」

引き続き、鹿児島市役所前では、大雨の中ではありませんでしたが、周辺の労組・団体の皆さんや、鹿児島地区高齢者退職者協議会の仲間の皆さまに参加いただき、集会を開催しました。

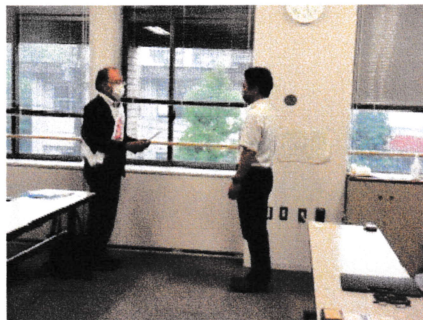


県原水禁副議長の下馬場さん、県被爆者二世の会の大山さんからあいさつをいただき、鹿児島市議会

「社民・立憲会派」大森忍代表に要請文をお渡ししました。



その後、「鹿児島市長・議長」「十島村村長・議長」「三島村村長・議長」への要請行動を行いました。



6月7日(水)は、前日と打って変わった良天候のもと、日置地区での要請行動を行いました。

日置市長・日置市議会議長への要請では、坂口副議長も同席いただきました。

また、いちき串木野市長・議長への要請行動には、中村敏



彦議員も同席いただきました。

大雨の中、ご参加いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

